

10月30日 韓国岳

伊藤多恵子

山名	韓国岳	山行名	屋久島・九州南部
ルート	えびの高原→登山口→韓国岳→韓国岳避難小屋（大浪池）→えびの高原		
山行日	10月30日	天候	晴れ
参加者	リーダー：山下 サブリーダー：西川 男性：竹原（順）、永井 女性：上田、大林、和田、竹原（絹）、伊藤（多） 合計：9名		

ルート概略図	コースタイム						
	地名		時：分	地名		時：分	
	えびの高原	着	6：40	えびの高原	着	12：45	
	↑ ↓	えびの高原 駐車場	発	7：00	えびの高原 駐車場	発	13：00
	↑ ↓	硫黄山火口 展望台	着	7：40		着	
			発	7：50		発	
	↑ ↓	韓国岳	着	9：10		着	
			発	9：30		発	
		韓国岳避難 小屋（大浪 池）	着	10：45		着	
			発	10：50		発	
	← 韓国岳	昼食	着	11：30		着	
			発	12：00		発	

屋久島から九州南部の二座をめぐる欲張り山行もこの日が最後の一日。ずっと晴れの日が続く幸運に恵まれ、前夜の寝不足にもかかわらず皆の足取りも軽い。レンタ・カー返却時間に間に合うよう、YさんとTさんが今日のコースを再検討し、高千穂までの縦走を断念、韓国岳から大浪池方面に回る行程となる。

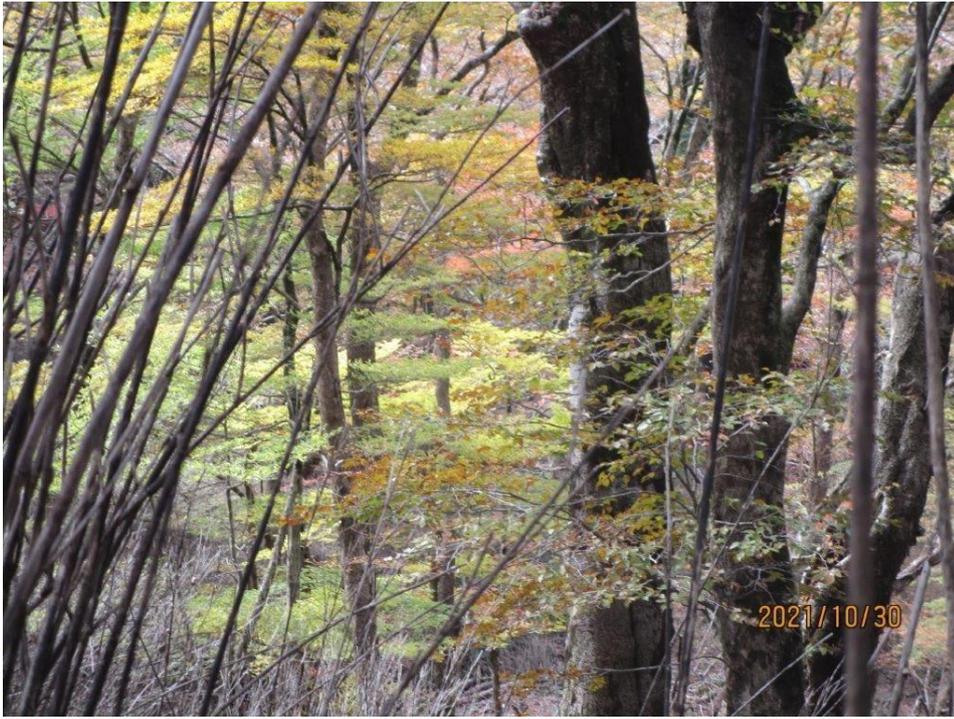
好天の土曜日のせいか、えびの高原には既に多くの車が。霧島屋久国立公園の一部である霧島山は、宮崎県と鹿児島県の県境に位置する火山帯の総称で、その最高峰が韓国岳だ。いくつかの火口や火口湖が点在する景観は魅力に富んでいて、しかも登り易い山域だから訪れる人が多いのだろう。出発から順調に高度を上げて行くと、一時間で硫黄山火口展望台に到着。まだ火山ガスを噴出する硫黄山に、白紫池、不動池などの火口湖が見える。台形型の甑岳もくっきりと。登山道に沿って、ドウダンツツジの紅葉が目立ってくる。キリシマツツジの低木も多くあり、春にはピンクに染まる山肌が想像される。また、えびの高原の固有種のノカイドウも5月上旬に可憐な花を咲かせるという。もちろん、今は紅葉・黄葉を楽しむ季節だ。

韓国岳頂上に近づくとつれ、大浪池がどんどん大きくなっていく。緑の湖面が美しい。2時間ほどで頂上に立つ。一帯は岩の積み重なりだが、荒々しくはない。360度の眺望に、真っ青な空、眼下の火口、火口湖、紅葉した山肌、眺めていて飽きることがない。

下りは最初滑りやすいザレ場。が、すぐに木の階段に変わる。昼食タイムを過ぎた頃には、多種多様な樹木の林が続いて紅葉も見頃だ。林が尽きるとポンと車道に飛び出す。その先、少し歩けばえびの高原駐車場だ。

旅のフィナーレを飾るにふさわしい快適な山歩きとなった。

(ヒヤリハットなし)



韓国岳山麓



韓国岳頂上

私は南九州より屋久島組に合流し、百名山の開聞岳（924m）・霧島山（最高峰の韓国岳 1700m）を登った。実は、百名山である事を知らなかった。

登山口のある ふれあい公園へ向かう道中、富士山を彷彿とさせる見事な三角錐の美しい山、開聞岳が現れた。私は運転中だったので写真が撮れず残念だったが、撮影した皆さんからデータを頂いた。

二合目の登山口から登り始め暫く進むと、火山礫のザレザレ道が現れる。後ろ足を蹴って推進力を得ようとするがザレ場に力を吸収される。しんどいザレ道は六合目付近まで続き、その後は更に傾斜がきつく、大きな岩や石が続く山道に変わる。石をまたいだり岩を伝ったりして頂上を目指した。この辺から樹林帯の隙間より東シナ海を望めるが、景観を楽しむ余裕はなかった。

頂上は、麓から見たイメージと違い狭い岩場である。ここで O さん、U さんに握って頂いたお握りをほおばり、池田湖、錦江湾が臨めるパノラマを楽しんだ。

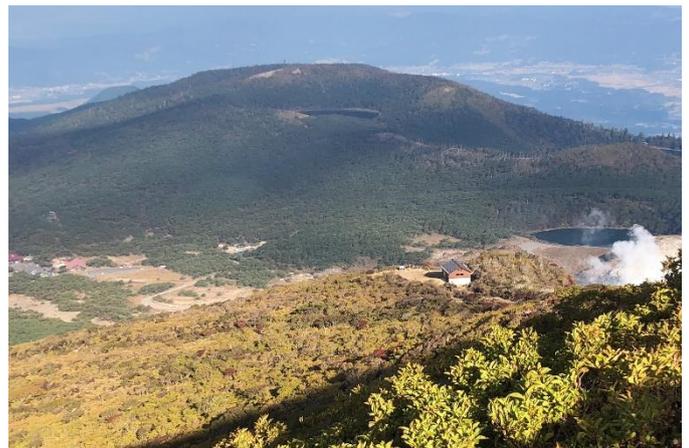
下りも長く続くザレ場で、私も含めて数人が石車にのり尻もちをつく。「誰が尻もちをつかずにゴールできるか」他愛もない会話を楽しみながらの下山であった。

標高差 860m 程の山だが、歩行距離 7.6km、時間 7 時間半。登るほど急になる傾斜が頂上まで続き、想像以上に厳しい登山であった。薩摩富士と呼ばれる開聞岳、富士山同様 見る山なのかな？

その日は霧島温泉泊。食事も温泉も素晴らしい宿に大満足。

二日目は韓国岳登山。前日に、石車に乗らないよう力を入れた足の筋力が回復せず重い足取りで硫黄山火口展望所を目指す。展望所からは白煙の立ち上る硫黄山、その後方には不動池や台形状の甑岳、更には北の山並みが広がっている。五合目付近からは火山礫や火山岩塊が登山道を覆い、段差が大きくなる。このあたりから足が目覚めてくれて登りを楽しんだ。高度を上げると登山口の駐車場や白紫池が眼下に広がる。

頂上では火口内壁を彩る鮮やかな紅葉や、南方の大浪池、奥に広がる霧島山の山並みを眺めた。南東方向には新燃岳が、その奥には高千穂峰が雲から頭を現す。絶景！ 韓国岳の情報を入れずの登山だったが、登れたことに感謝です。



ご一緒させて頂いた皆さん、楽しい時間をありがとうございました。特に半年程も前からの綿密なプラン立案、コロナの影響での見直し、直前には工程の留意点や気温情報を示して頂いた CL さんに感謝致します。

今回の山旅が近づくにつれ、10日間天気予報が気になりだす。道中は飛行機1回・船2回もあるし、避難小屋泊りもある。1W前は雨予報が続き心は重くなり、いつもより雨対策の小物を用意したり、甘南備神社にお願いしたり。特に屋久島はひと月に35日雨が降るといわれている。ところが、出発2日前の予報では2-3日間は晴予報に一転し、心配は全くご無用で、山旅の6日間快晴に恵まれた。最終日に宮崎から神戸に行くフェリーの中だけが大雨で、こんな幸運にめぐまれるとは！！参加者の行いが良かったのだ！昨年秋の九州北部の山旅の時もほとんど雨に合わなかった。得意だったツリも無く、「晴男」の命名もいただき、スケジュール通りに無事故で帰って来れ、今回の山旅は十二分満足できた。出発前に地元の甘南備神社に無事をお願いし、帰って来てから無事に帰ってこれたお礼参りに行った。甘南備山（交野山含む）は訓練登山として毎年エージ登山をしているが、その日は今年で80回目でした。

○**計画**：今年の春から計画し、4月の総会の時に希望者を募り、ボチボチ計画を詰めていった。新型コロナが拡大し、緊急事態宣言に突入したり、実施の可・否は予測もつかない。交通手段がコロナでダメになっても、キャンセルは可能になるだろうとの思いで早めのフライト・船便・宿等の予約をした。その間、コロナで客が減り、閉鎖した宿の変更や船の減便などもあった。幸いにも10月に緊急事態宣言が解除されたが、旅行客はすぐには戻らないので、逆に宿を含めて静かな山旅をエンジョイできた。長旅ゆえ荷物が増えるので、山行中や移動中の荷物の扱いをどうするか苦慮した。屋久島には意外と預けられる所が少なかったため、レンタカー移動することで解決した。九州では初めからレンタカーの利用を予定していたから問題はなかった。

山登り時の時間はアバウトに設定したので、目的の山が行けなかったり、途中で引き返したり、次の宿に着く時間が大幅に遅くなったりして失敗した。山中での時間設定だけでなく登山口や下山後での予備の時間などの考慮が計画時点で不足していて反省だ。

○**山の感想**：屋久島宮之浦岳途中の大木群に囲まれての登山道や御在所岳の如き山容、島には赤・白・黄色と色とりどりの芙蓉の花、白谷雲水峡の大岩、屋久島から指宿港間での西日を背景にした開聞岳のシルエット、開門岳頂上の展望、百名山にふさわしい韓国岳周辺の展望、そこから下山途中のハイキング道の紅葉と穏やかな雰囲気、いずれも初めての山で満喫できた。いつもの山行きでは素晴らしい渓谷美に出会っているせいか観光地化した白谷雲水峡での感激は他の山に比べ低かった。

○**宿と食事**；屋久島の初日は1400mにある淀川避難小屋。山行報告に書いたように寒さ対策をしっかりするべきだった。暮れる前に食事を済まそうと思ったためか、レトルト食品のα米の戻りが不十分でおいしくない。今後は別の工夫をしようと思う。

民宿2軒にお世話になった。いずれも親切で、熱烈歓迎！の貸し切り。食事も丁寧な造り。屋久島では地元産のトビウオの姿焼きに感激する。Tさんのところに飛んで行きそうに心配。翌日の昼食弁当は竹皮に包んであり、うまか。指宿の宿では地域限定の50%引き。宿のおかみさんは超親切で、お昼のおにぎりにもぎらせてもらう。家族風呂で天然温泉も出て、砂風呂は又の機会とした。最後の宿となった霧島温泉郷の「旅行人山荘」は到着が7:40過ぎと遅くなり、山荘とあるが歴史のある宿で調度も

温泉も豪華版。遅く着き、かつ朝は6時発なので くつろいだ感じ無しで後ろ髪を引かれた。食前酒に始まり、全部で 11 献立、デザートも「果物・ケーキ・甘酒ムース」と3品、ちょっとずつだったけど。「花房御膳」でした。

○山でのタイムスケジュールの設定への反省

今回の山旅で、健脚者は宮之浦岳縦走をし、我ら6人のマイナー組は淀川登山口から宮之浦岳のピストンを計画した。概略往復 10 時間としていたが、予想より時間がかかり、投げ石平で引き返した。ピストンよりは縦走の方が適切だったかもしれない。健脚の W さんの実績と比較してみた。彼は標準時間より短い時間で登っていた。我らマイナー6人組では難所や関所では通過に時間もかかり、難コースでは標準時間の 1.5~1.8 倍、難易度中の場所では 1.3 倍、白谷雲水峡のような易コースでは標準時間で歩いていた。参考までに、2013 年夏山登山での難コースは平均 1.33 倍（最大 1.6 倍）だった。今後、高齢者グループでの登山の時の所要時間の設定には下記の倍率を参考にしたい。

所要時間＝標準時間×難度に応じた倍率＋休憩時間（昼食時間等）＋予備時間

屋久島内でお世話になったタクシーの運転手さん「屋久島の山は本土の山とは違うヨ」との言葉が心に残った。

山名	コース	コースの 難・中・易	数・脚力	実績/標準時間 (倍)
屋久島	淀川登山口→淀川小屋	難	6人・弱	1.50
			1人・強	0.80
	淀川小屋→花の江河	中	6人・弱	1.27
			1人・強	0.73
花の江河→投げ石平	難	6人・弱	1.75	
		1人・強	1.00	
白谷雲水峡入口→ 白谷小屋	易	6人・弱	1.0	
開門岳	2合目→頂上	中	6人・弱	1.31
韓国岳	登山口→頂上	中	6人・弱	1.3
	避難小屋→登山口	易	6人・弱	1.4
北アルプ ス・白馬	2013 夏山登山。 30 個のデータ解析	難	数人・弱	1.33 (最大 1.6)
		易		1.13

○ 最後に；参加者それぞれの役割分担を全うしていただき、全員無事に帰ってこれたことに感謝いたします。又の機会を楽しみにしています。